



凍結したアムール川の上にてきた、中国とロシアを結ぶ[®]車道。(黒河側から撮影)

中国とロシアが昨秋、東部国境の画定で合意したのを受け、両国の間で国境貿易の拡大機運が盛り上がっている。このほど、ロシアと三千四十五^キの国境線で接し、中国の対口国境の70%を占める黒竜江省の貿易の最先端、黒河市を訪れた。(黒竜江省黒河で・中津幸久、写真も)

省都ハルビンから北へ約六百四十^キ、列車で十四時間余りの黒河は肌を刺す寒気に包まれていた。気温は氷点下三十二度。「今月五日に凍結が完了したばかりです」と、案内役の市国境経済協力区政策研究室の霍慶先主任は

アムール川(中国名・黒竜江)を指さした。

川の中間を国境線とするアムール川は、幅七百―千^ミ。対岸のブラゴベシチュエンスクの町並みが明りように迫る。荷物を満載した中国側のトラックが、凍結した川の上を対岸に向かうのが見え、冬の交易が始まっていた。氷が解ける五月以降は、船が往来の主役となる。

市内には地下の商店街など市場が数か所。中国側の主力商品である衣類、日用雑貨、食品などを仕入れるロシア人の姿が目立つ。ロシアからは水村など原材料や化学肥料が主な輸入品だ。

六〇年代、国境紛争で対ソ交流が中断した黒河は、八七年の貿易再開とともに、活気を取り戻した。人口十二万人、市内には十階前後のビルも見える。

しかし、対口貿易額は九三年の四億八百万^{ドル}をピークに減少し、昨年は一億二千万^{ドル}。ロシアの経

済不振や入国制限、中国の経済引き締め政策などが影響したためだ。

だが、「エリツイン大統領の来訪は大きな励みです」と蛋主任の表情は明るい。ロシアのエリツイン大統領は昨秋の訪中時、ハルビンも訪れた。旧ソ連時代も含めロシアの元首が黒竜江入りしたのは、中国建国後初めてだ。

大統領は、地元の貿易関係者らと懇談した際、二つの提案を行ったという。一つは、国境貿易従事者に対する相互ビザ免除。もう一つは、「通商貿易区」の設立。貿易促進に向けたロシア側の意欲の表明だった。

これを受け、黒河では大型プロジェクトが現実味を帯びてきた。市はアムール川の中州の大黒河島(〇・八七平方^キ)に「通商貿易区」を計画し、今年は準備のための専門機関を設けて建設計画を具体化させる方針。「スムーズに行けば二年以内に着工できる」

(張兆華・市対外経済協力局副局長)と期待をかける。

さらに、ブラゴベシチュエンスクと黒河をつなぐ橋の建設構想がある。両国関係の改善で地質調査などの進展に弾みがつき、こちらも一、二年内の着工が夢ではないという。

明るい材料をもとに、張副局長は今年の市の対口貿易額を昨年比67%増の二億^{ドル}とはじく。各貿易会社も取引の活発化を予想し、黒河輸出入公司の麻森林・総経理は「ロシア極東地域に食い込むチャンス」と、今年中にロシアの支店を五店から七店に増やす方針だ。

ただ、ロシア側には、中国人の活発な商活動を「商業移民」として警戒する空気が強い。また、国境貿易は物々交換から外貨決済に移行して日が浅いためトラブルが多いなど課題もある。両国は二〇〇〇年の貿易額二百億^{ドル}を目標にするが、昨年見込みで目標の半分に達したにすぎず、ともに経済見通しが不透明な中、これらが正念場となる。